

# 1 農業本質論

(1) 農業って、何！

(2) これは農業？

(3) 農業とは

(4) 農業生産とは

(5) 農業経営とは

(6) 農業生産の特質

(7) 最小効率規模

(8) 農業生産と家族経営

(9) 農業生産と農業労働

(10) 農学論の体系

# (1) 農業って、何！



水田転作のひまわり











## (2) これは農業？

- サラリーマン家庭だが、自宅の庭にきゅうりを植えており、食べ頃になったら、採って食べている。
- 年金生活者であるが、市民農園を借りて野菜を作っており、たくさんできたら、近所の人にも分けてあげる。
- トラクター、田植機、コンバインを揃え、近所の農家の稲作基幹作業を引き受け、その作業受託料金で生計を立てている。
- 自分の果樹園でできた梅を梅干しやジャムにして、スーパーに販売している。
- 契約生産してもらった酒米を使って、吟醸酒を製造している。
- 農協が農家からブロイラーを買い取り、と畜・解体・真空パック詰めにして出荷している。
- 集落が、集落内水田の水田転作の場所、転作作物、転作業者や作業の時期を決め、転作作物も集落の名で販売しているが、米については、各農家が独自に稲作生産を行っている。



## (3) 農業とは

### 『農林水産統計用語事典』(農林統計協会)

耕種、養畜(養禽及び養蜂を含む)又は養蚕の事業をいう。なお、自家生産の農産物を原料として農産加工を営む場合も農業に含める。

### 『国語大辞典』(小学館)

栽培・飼育によって作物や家畜などを肥大生産させ、それをそのまま、あるいは加工して利用する活動の総称。

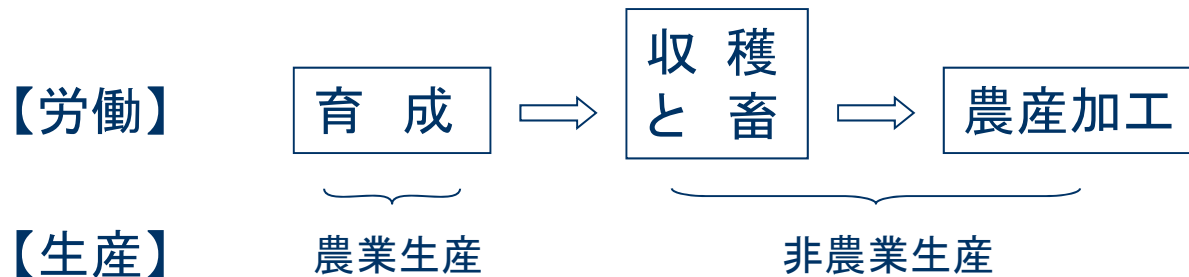
### 『広辞苑』(岩波書店)

地力を利用して有用な作物を栽培耕作し、また有用な動物を飼養する有機的生産業。広義では農産加工や林業をも含む。

## (4) 農業生産とは

### 農業生産の概念

有機的生命体そのものの成長に手をさしのべる直接的・間接的育成労働により、有用な農産物を産出すること



〔 収穫労働およびそれ以降の労働に基づく生産と、と畜労働およびそれ以降の労働に基づく生産は、農業生産ではない。 〕

# (5) 農業経営とは

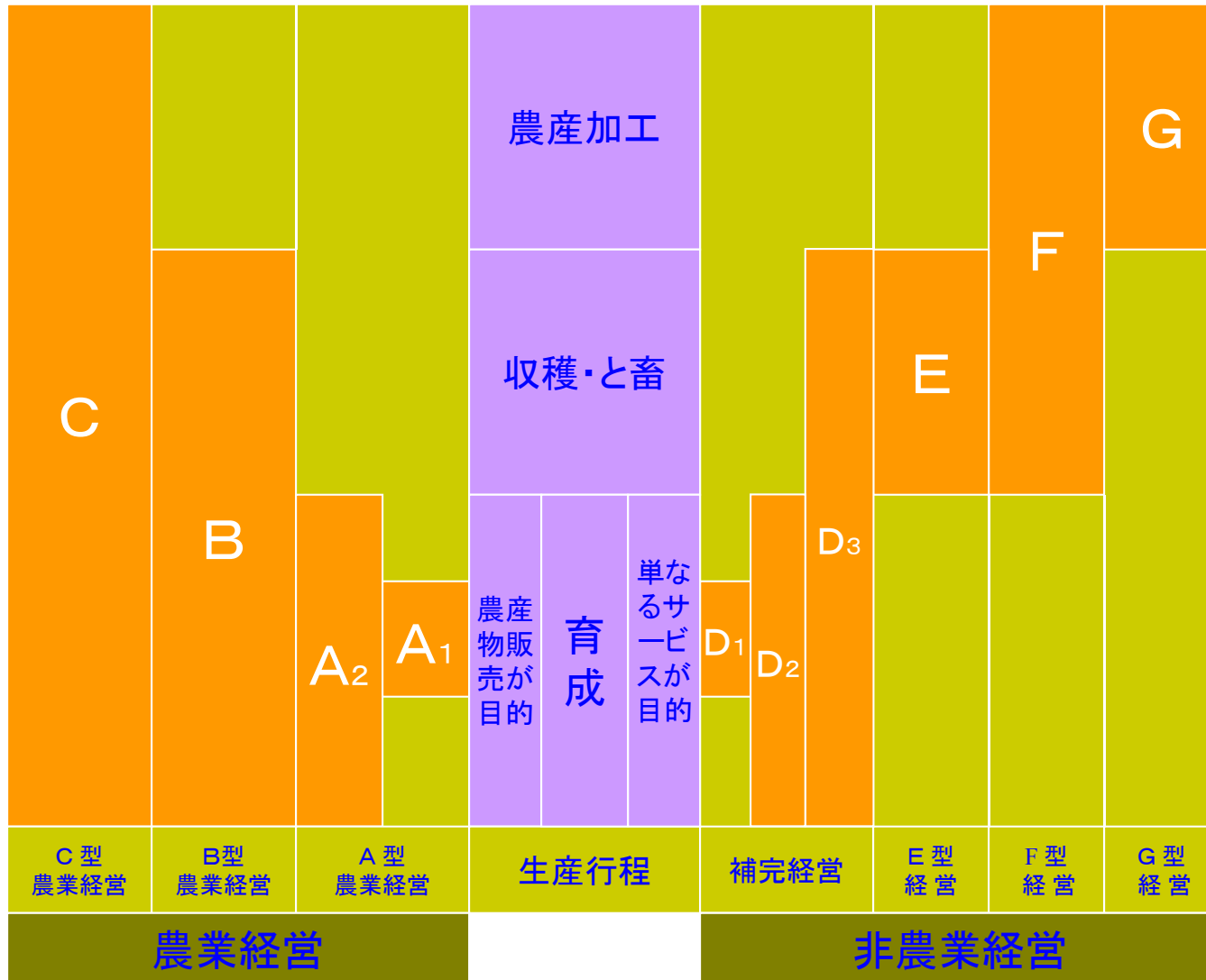
## 農業経営の概念

農産物の販売を目的として農業生産を営むこと  
(種苗を生産して販売する経営を除く)

## 農業経営にかかわる権利

- ① 経営主宰権
- ② 農産物所有権
- ③ 農産物販売によるリスク負担権

# 農業経営の3つのタイプ



## (6) 農業生産の特質

### 農業生産の時間的特質 《農業生産の季節的制約》

- ① 各種農作業が1年のある時期に強く固定していること
- ② 各種農作業の要求する労働所用量に著しい季節的多寡を生じること

### 農業生産の空間的特質 《農業生産の空間的制約》

- ① 労働対象が空間的に固着していること
- ② 労働対象が広大な空間的に広がっていること

## (7) 最小効率規模

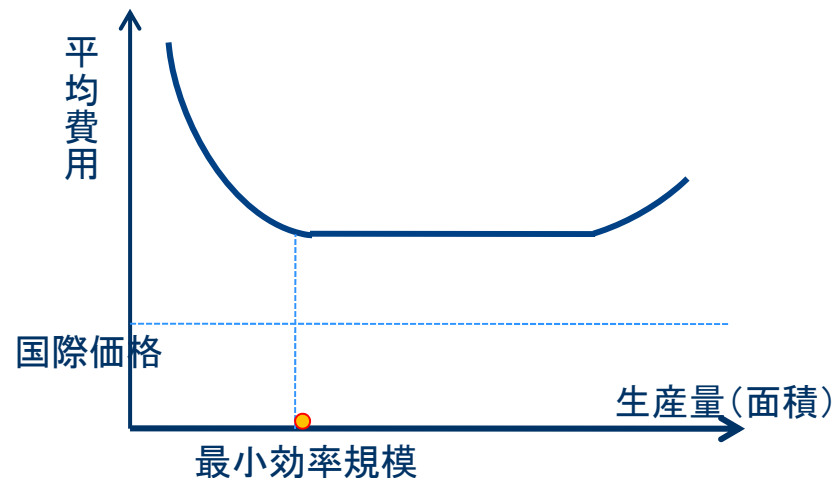
### 規模の経済

生産量増加にともなう長期平均費用低下のこと

なお、短期平均費用の低下は「固定費の拡散」と、また時間を通じた短期・長期平均費用の低下は「経験効果」という。

### 最小効率規模

平均費用が最低水準となる領域の中で、最小の生産量に対応する規模のこと



## (8) 農業生産と家族経営

### 農業生産と規模の経済

農業経営においては、家族経営の枠を超えて労働力規模を拡大しても、規模の経済は働きにくい。

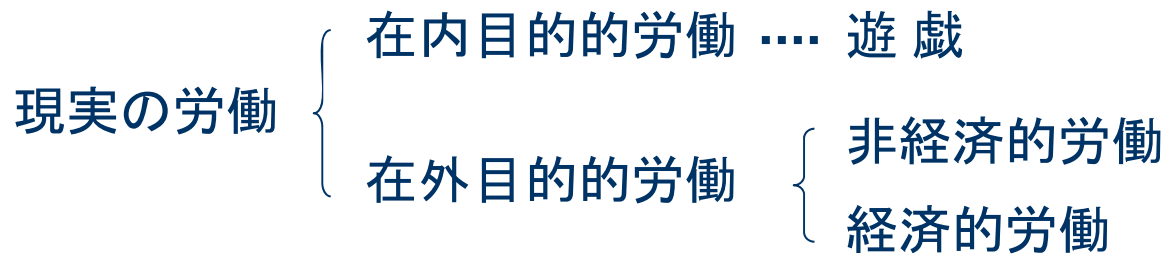
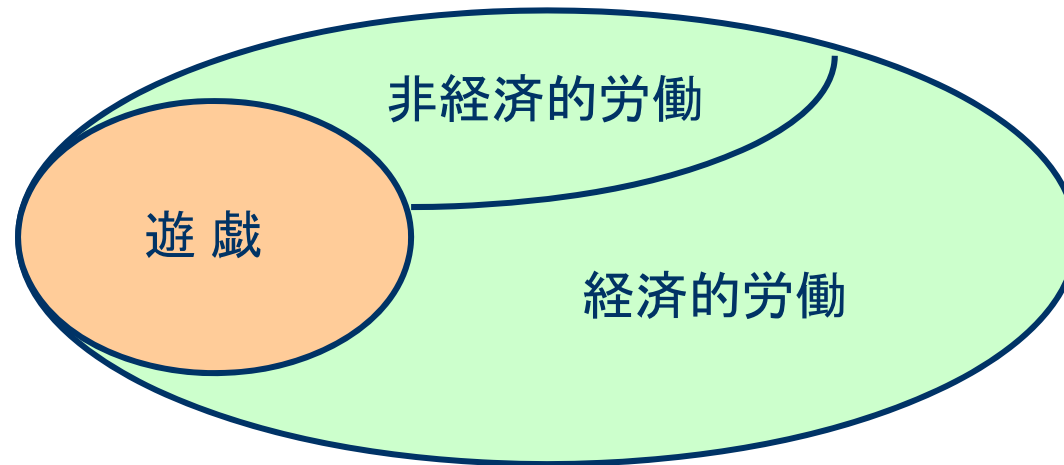
#### ① 技術的理由

農業生産における時間的・空間的制約の存在のため、家族経営の枠を超えて労働力組織規模を拡大しても、規模の経済は働きにくい。

#### ② 人的理由

農業労働は、有機的生命体を対象とすることから、自発的に創意工夫を行い、臨機応変に活動する良質の労働を必要とするが、大労働力組織規模の経営ほど労働意欲が減退する可能性が高い。

## (9) 農業生産と農業労働





# (10) 農学論の体系

有機的生命体を操作することを通してより高い価値を実現しようとする人間の目的的な営みの理論的体系化

時間性  
(労働過程)

技術的労働こそ  
労働の本質

技術を解きほぐすことなくして労働の過程およびその発展の姿を説き明かすことは不可能

空間性  
(土地面積の拡がり)

所有的土地こそ  
土地の本質

所有の関係に触れずして土地の生産への貢献とその発展の相を論ずることは不可能

# 農学の方法

## 【農学と試験的方法】

### ■ 自然科学の方法：実験的方法

観察 → 構想(仮説) → 実験 → 学説定立

⇒ 自然科学は実験を媒介にして自然必然の法則性を明らかにする。

### ■ 文化科学の方法：類型化的方法

追体験・了解 → 価値的・個性的なものの要因選択 → 理想類型化(仮説)

→ 歴史的現実の統一的説明(史観確立)

⇒ 文化科学は個性的なものの類型化により文化意義を明らかにする。

### ■ 農学の方法：試験的方法

診断 → 計画設計 → 試験 → 範型(モデル)の構築

⇒ 農学は目的的な人間行動を問題とし、より高い成果を得る途を客観的に把握する。

(注)試験と実験：実験は自然自体をして自己叙述させるものであり、試験は仕組まれた自然をして自己叙述させるものである。